

# 黒尾家

輝飾

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

第三体育館組を家族にして+αでいろいろな人が出てくる！

黒尾家の日常を描いたお話です。

たまーに兄貴力を発揮してくれる人。厨二病絶賛こじらせ中の人。めっちゃ頼れる無気力さん。兄貴に毒舌ショートケーキ大好きさん。などなど…

個性豊かな兄弟達です!!

# 目次

第三体育館組家族パロ	1
ー学校ー	9
日常（午後）	14
病院	19
シヨツピング♪	24
やっぱり・・・	28



## 第三体育館組家族。パロ

### 〔人物紹介〕

両親：10年前に他界。しかし、末っ子はしらない。

長男：光太郎（26）

通称【おーにいちやん】

職業【スポーツインストラクター】

たまに、とんでもないくらい兄貴力を発揮してくれる。

次男：鉄朗（21）

通称【ちゅーにいちやん】大学3年生。四男&末っ子大好き。絶賛厨二病こじらせ中。

バレーのサークルに所属。

三男：京治（18）

通称【ちーにいちやん】高校3年生。めっちゃ頼れるお兄ちゃんだけどちゃんと兄貴

も頼るからみんなから愛されてる。

バレエ部。

四男：蛭（16）

通称【けいにいちやん】高校2年生。次男の愛がうざい。

末っ子のためならそれなりに動いてくれる。三男以外はなかなか頼らない。

末っ子：○○（14）

中学2年生。黒尾家唯一の女として愛されまくっている。

お兄ちゃんみんなだーいすき!!

### 【幼馴染】

蛭？山口忠（16）高校2年生。蛭と共にバレエ部に所属。

鉄朗？孤爪研磨（20）大学生。

### 【お隣さん】

菅原孝支（26）&澤村大地（26）

よく○○の面倒を見てくれる優しい人たち。

【朝】

ピピッピピッ

携帯のアラームの音が鳴る。

鉄「んあ？もう朝かよ。」

階段を降りて時計をもう一度確認する。

やっぱり5:30。

まずは、京治と蛍の弁当を作る。

高校生二人の弁当なのに中身が全然違う。

京治はガッツリと食べるが蛍は、全く食べない。なんで生きてられるのかオレには分かんねえ。

高校生二人の弁当が完成したら、次は〇〇。

あいつはちよつとわけアリ。なんか知らねーけどアレルギーがめちやくちや多い。だから、めつちや気を付け作んないといけねえ。

最後は兄貴。とりあえず米の上に焼肉のタレで焼いた肉を米が見えないように乗っける。

おかずはテキトウに昨日の残りと冷食。

んで、最後に俺。

まあ、あるものでちやちやつと作つちやう。

【6:30】

タン、タン、タン、

階段を降りてくる足音がする。

今日はどつちが先か。

…やっぱり京治か。

京「ちゅーにいおはよ」



鉄「ん、おはよー」

京「俺の弁当どつち？」

鉄「みぎー」

いつの間にか制服に着替えて寝癖もなく学校に行ける準備が整ってる。相変わらずすげーわ。

京「いつてきまーす」

【6:35】

ガチャツ

鉄「おはよ♡けいちゃん♡」

蛭「朝から不快になるような真似はやめてヨちゅーにい。」

鉄「お前、まだ寝癖なのによくそんな堂々としてられんな」

蛭「ちゅーには年中寝癖ジャン」

鉄「これはオシヤレなんですー」

蛭「はいはい。」

【7:00】

蛭「いつてきまーす」

ダダダダ

バタン！

光「おい！鉄朗!!もう7時じゃん!!なんで起こしてくんねーノ!!」

鉄「京治と蛭は自分でちゃんと起きてきてくれるからだよ」

光「オレは起きれねーノ!!」

鉄「知らねーよ!!」

【7:30】

ガチャツ（〇〇の部屋に入る）

鉄「〇〇?起きてるー??」

「うん!!ちゅーにいちちゃんおはよっ!!」

鉄「おはよ。弁当机の上にあっから。」

「ありがとー!!」

鉄「準備出来てる?？」

「うん!」

カバンにちゅーにいちちゃんの作ってくれたお弁当を入れて私は学校に行く準備をした。

ピンポーン

考「○○ちゅーん?」

「はーい!!」

鉄「いつもすんません。考支さん。」

考「全然大丈夫だよ。じゃあ、行ってくるね」

「ちゅーにいちちゃんいつてきまーす!!」

## —学校—

私は毎朝考支さんと一緒に学校へ行く。

私は昔っから身体が弱くてなかなか1人で何かをすることをちゅーにいちやんは許してくれない。

まあ、ちゅーにいちやんが私の事を心配してくれるんだからいいんだけどね？

私が今通っている【梶谷学園】は、歩くと1時間ぐらいでつく。

たったそれだけの距離なのにちゅーにいちやんはそこに通うのを最初は心配しにくっていた。

初等部はスクールバスがあっただけで中等部からはスクールバスのお金結構痛いらしくもつと近場に通わせようとした。でも、お隣の考支さんが梶谷学園中等部の教師だったから、送ってもらえることになったの!!

ちゅーにいちやんもそれならって言うてくれたから私はここに通ってるの♪

私はもともとバレー部に所属してた。

けど、もともとの持病(?)があつて早々にやめさせられちゃった。だから、部活はないよ。だからこそ、こんなにゆっくりと登校出来るの♪♪

【登校中の高校生組】

ピンポン

ガチャツ

忠「おはよー、ツツキー」

蛭「はよ。」

忠「ツツキー、今日の数学の小テスト勉強した??」

蛭「当たり前じゃん」

忠「だよね!」

蛭「どーしたの？なんか無理やりな感じするケド」

忠「やっぱりツツキーにはバレちゃうよね？」

蛭「何、何かあつたの？」

忠「いや、別に大したことじゃないんだけど」

蛭「何？早くいいなよ」

忠「今、ここまで来る途中に澤村先生そっくりな人とすれ違つたんだよね」

蛭「ふーん」

忠「ツツキー怖くないの??もしかしたらご近所さんかもしれないんだよ!？」

蛭「いや、近所もなにもお隣さんだよ。」

忠「そ、そうなの……?？」

【登校中の高校生2】

京「暇だ……」

俺にとってこの登下校の時間ほど静かで暇な時間は無い。

家なら必ずおーにいや、ちゅーにいが大騒ぎしてるし、○○も何かしら寄ってくるか

ら静かな時間などない。

でも、その環境になれているからちよつとやそつとの物音じや特に反応しなくなつた。そのせいか、俺と蛍は冷めてて「無気力」と呼ばれている。

別に、気力がないわけじゃないんだけど……

【部活中の高校生】

部活は蛍と京治は一緒。

蛍はかなりいいMBだし、京治もいいSだ。

兄弟でスタメンなんてしよつちゆうだから絶対、苗字なんて呼んじやいけない。あと、蛍と京治も分かりにくいんだけどね。それは、亡き両親がつけたんだから文句は言えねえ。

あ、語り手のお前は誰かって？ まだまだ出番とセリフの少ない光太郎だよおおおおおお。

今日はインストラクターとして高校生のこいつらに練習メニュー（基礎）と怪我防止の方法、怪我の応急処置だけ教えに来た。



それにしても、  
蛍と京治カッコイイなあ。

## 日常（午後）

鉄：今日俺は、大学が休みだったから一日中家にいた。もうすぐ、〇〇が帰ってくる時間だから俺のゆつくりできる時間も後ちよつとだな：

ダダダダ！！

バタン！！

光「たっだいま〜！！」

くそっ、こいつが先だったか：

鉄「おけーり」

光「おうっ！今日俺さーめっちゃ帰ってくるの早くなーい??」

鉄「おう、クビにでもなったか??」

光「ちげーよ、ひっでーな!!」

光「今日の仕事さー、梶谷学園高校だったんだよね〜」

鉄「へー、」

光 「反応薄っ!!」

鉄 「だからなんだよ。」

光 「いやいや、だって、○○も京治も蛍もいるんだよ??」

鉄 「おー、いるな」

光 「しかも、蛍と京治のいるバレー部!!」

「ただいま〜」

鉄 「あー、おかえりー○○」

「ただいまー、ちゅーにいー」

光 「おいつー!まだ俺の話終わってな、」

光 「おかえりー!!○○ー!!」

「ただいまっ、おーにい!」

光&鉄：俺の癒し…

「ちゅーにい、今日のおやつなーに??」

鉄 「今日はなー、ショートケーキ??」

「やったー!!じゃあ、けいにいが帰ってくるまで食べるの待ってるねー」

光 「○○は、いい奴だなあ」

―高校生組帰宅―

蛭&京『ただいま〜』

「おかえりー!!けいにい!!」

蛭「今日はやけに元気だね?どーかしたの?」

「うん!今日のおやつはね、ショートケーキなのっ!!」

蛭「そうなんだ」

京「でも、もう晩御飯の時間だからデザートになっちゃうんじゃない??」

「そっか…そーだね!!じゃあ、早く食べよっ!!」

蛭「うん。」

「あっ!!ちーにいちよつと待って!!まだ、おかえりって言ってないから家入っちゃだ

めー!!」

京「えっ?あつ、うん。」

「ちいにい、おかーえり!」

京「ただいま、」

―〇〇自室で勉強中―

## i n リビング

蛭「ねえ、ちゅーにい」

鉄「んー??」

蛭「○○おやつ食べてないの??」

鉄「なんで？」

蛭「さつき冷蔵庫見たら、ケーキ5つ残ってたから」

鉄「あー、うん。一応。」

蛭「薬は？」

鉄「ちよろつと菓子食わせて飲ませたよ。」

蛭「ふーん」

鉄「なあにい？けいちゃん。可愛い妹が心配なんでちゅかー？」

蛭「うざっ、」

京「何それ。ちゅーにいきもいよ。」

鉄「京治までっ！ひどっ、！」

蛭「そりゃ、心配だよ。○○まで死なれたら困るし…」

―晩御飯中―

光「なぁー、鉄朗ー」

鉄「なんだよ」

光「俺、肉がよかつたんだけど…」

鉄「昨日も一昨日も肉だったじゃねーか」

光「○○もお肉がいいよなー??」

「えっ?ちゅーにいがせつかく作ってくれたんだから文句言っちゃだめだよ!!」

蛍&京治「ププツ…」

光「ゴメンナサイ」

○○「(咳き込む)」

鉄「あー、大丈夫ー?」

京治「○○ー?大丈夫ー?」

京治が背中をさすりながら優しく声をかける。

食事中に○○が咳き込まなかったことなんてなかなか無い。

「うん、大丈夫ー」

○○がちよっぴり疲れ気味に答える。

やっぱ、たまに心配になるわー

## 病院

〇〇は昔っから食事中には必ず咳き込む。

もともとの持病が関係してて、もう俺らにとっては日常茶飯事。（学校側はどうか知らないけど）

京「〇〇大丈夫〜?」

京治が優しく背中をさする。その間に俺がかかるーく薬の準備を万が一のためにしておく。まあ、今回は必要なさそうだけど

「ごめんね? お兄ちゃん達。もう、大丈夫だから」

蛍「ん。ならよかった。」

京「ごはん、まだ食べれそう?」

「うん! 食べれるー!!」

ー食事終了後ー

鉄「〇〇ー、デザート食べるー?」

「うん!!」

京治と蛍と○○がデザートを仲良く食べているのを見ながら俺は洗い物をする。もう、これが我が家の普通だ。

デザートを食べたら○○は薬を飲んで風呂。京治&蛍はおべんきよ。兄貴は…ほかつとこ。

京「蛍、ほんとにショートケーキ好きなんだね（笑）」

蛍「?なんでさ」

京「すっごい幸せそうな顔して食べるから（笑）」

蛍「／／／そんなことないし…」

ー○○就寝後ー

鉄「なあ、みんな。」

蛍「えっ、何?」

京「ちゅーにいが真面目オーラ出してる…」

光「○○になんかあったの…か…?」

鉄「なんかみんな、俺の扱いひどくね?」

蛍&京治「そーかな?」

鉄「高校生ふたり怖っ!!」



京「で、本題は何？」

鉄「あー、うん。あのさ、今度の日曜日暇なやついる？」

光「はーい！はいっ！俺ヒマっ!!」

鉄「京治と蛭は？」

京「日曜は俺ら2人とも部活ないから空いてるけど？」

蛭「ちゅーにいとこのデートならお断りデース」

鉄「蛭ちゃん、俺の扱い。」

京「で？」

鉄「俺、日曜に授業入っちゃって。誰か、〇〇の病院連れてってくれねえかと」

京「俺行くよ」

鉄「すまん。助かる」

ー日曜日ー

(語り手?京治)

京「〇〇ー、病院行こっか」

「えっ?今日?」

京「うん。…?嫌なの?」

蛍「あつ、ちいにい」

京「何?どうしたの?」

蛍「実は…」

今日は点滴の日らしい。○○は点滴が大ツツツ嫌い。

そんなこと、俺らは全員知ってる。

どうしよう・・・

今は9:30。点滴は30分間。だから、終わるのは10:30。

よし。

京「○○ー、病院終わったら最近出来たシヨツピングモール行こっか」

「!!いいの!?!行く!!」

あ、ちなみに○○は今日の病院で点滴されることは知らない。

蛍「じゃあ、病院行こっか」

lin病院ー

蛍「ちいにい、○○に点滴の事言った??」

京「ううん」

蛍「どつちが言う?」

京「え？別にどつちでも良くない？」

蛭「じゃあ、ちいにい言つてね。」

京「え、いいけど」

京（え、なんかあんの？）

京「○○、今日点滴だけど頑張れるー？」

○○硬直

昔つから変わらない反応。

「はあ〜」

○○のテンションがとてつもなく下がったのは言うまでもない。

蛭（いつもと違って、泣かないな…。シヨツピングモール効果？）

ー点滴終了後ー

○○はおーにいに抱っこされて泣いている。

やっぱり、まだ泣くんだ

中学生なのにかなり小さい○○だから、ぱっと見親子みたい。

光「よしよし、泣くなー」

蛭（おーにいが、お兄ちゃんしてる…）

## ショッピング♪♪

〔in車（病院後）〕

○○○←泣き

蛍「○○○、今からショッピングモール行くんでしょ？そんなに泣いてたらみんなに笑われちゃうよ？」

「はいもん。」

○○○すっごい拗ねてる・・・

まさか、おーにはいとはもかく。蛍と俺でも手に負えないなんて想定外。

どうしよう・・・

光「○○○、もうすぐショッピングモールつくぞー!! いたら、兄ちゃんがクレープとかアイスとかなんでも買ってやるからなー!!」

その一言で○○○がピタッと泣き止んだ。

おーにいが使い物になるなんて・・・

「ほんと??絶対?」

光「おうっ!!」

蛍「良かったね○○。」

「うん!!」

さつきまでの○○とはうって変わって○○はキラツキラの笑顔を浮かべている。

【inショッピングモール】

エレベーターに乗って、4階のフードコートにやって来た。

点滴後だというのに○○はすっごいはしゃいでいる。

光「○○なんか食いたいもんあるか?」

「うーん・・・、悩みなあ・・・。あつ!クレープ!!クレープ食べたい!!」

光「そっか!!じゃあ、買いに行こー!!」

蛍と俺を残して2人で走って行ってしまった。

はあ、○○が疲れて熱出さないようにしないと。

蛍「ねえ、ちいにい、」

京「ん?なんか食べたいものでもあったの?」

蛍「おーにい達じゃないんだから。」

京「??」

蛭「○○さ、熱出さない？大丈夫？？」

京「あー、それ？それなら大丈夫。俺も細心の注意をはらって○○の事みとくから。」  
蛭「うん、お願い」

「たっだいまー!!」

京「早かったね。二つも食べるの？」

「ううん。こっちのイチゴのやつはけいにいのぶん!!」

蛭「僕の分？ありがと」

光「けーじには、コーヒーな!!」

京「ありがと、おーにい。」

○○と蛭が隣に座って、色々と話している。

蛭がスマホでモールのことを調べて○○にお店を見せたりしてる。

【ショッピングNOW】

蛭「○○は何が欲しいの？」

「うーん……。あつ！ぬいぐるみ!!」

蛭「ふーん、どんなの？」

「うさぎとかねいとかね!!」

蛭「じゃあ、あの店入ってみる?」

「うん!!」

身長180<sup>センチ</sup>越えの男3人と145ぐらいしかない女の子1人とか、通報レベルでしよ。なのになぬいぐるみの店に入るとか・・・。

【シヨッピング終了後in車】

京「○○、欲しいもの買えてよかったね」

「うん!このネコはベットに置くんだけ」

光「○○、帰ったら鉄にいっぱい自慢してやれよ」

「うん!!でも、今度はみんなで行きたいね」

蛭「そーだね。どうせなら、友達も誘ってさ」

光「蛭!それいい!!」

京「おーにい、ちゃんと前見て。」

やつぱり・・・

〔in家〕

光「たっだいまー!!」

「ただいまー!!ちゅーにいーみてー!可愛い猫飼ってもらったのー!!」

蛭「いや、ぬいぐるみデシヨ」

京「まあ、いいじゃん」

〇〇元氣そうだ。モールで、あんなにおーにいとほしいでいたのに熱を出してない。よかった

鉄「おー、おかえりー」

ちゅーにいが、キッチンで晩御飯の準備をしながら俺らに言ってくれた。

鉄「京治、〇〇熱出さなかつた?」

京治「うん。大丈夫だった。俺も蛭も、細心の注意をはらって〇〇のこと見てたから。」

鉄「そつか。まあ、兄貴だけじゃねーから、安心だわな」

蛭「いやそれが、おーにいが一番役に立ったんだよ」



京治「うん、おーにいが色々○○を振り回してくれたから点滴の後でも、○○元気そうだったし」

蛭「ちよつと疲れてたらずぐ抱っこしてたし。」

鉄「中学生なのに抱っこつて、ww」

京治「○○、見た目小学生じゃん」

【in晩御飯】

「おにいちゃん、○○もう、いらな、い、い、」

光「えー？まだ、味噌汁ちよつと飲んだだけじゃん」

蛭「あ、」

○○が、「お兄ちゃん」なんていう時は絶対体調が悪い時だ。学校で、体調崩した時によく使うから癖になっているのだろう。○○の顔が真っ赤なのに俺は気付いた。

京治「ちゅーにい!!○○顔真っ赤!」

鉄「兄貴!!○○ベットに連れてって!!」

光「おうっ!!」

【inn○○room】

○○の顔が真っ赤だ。点滴したから、まだいい方だと思ったのにかなり咳き込んでい

るし苦しそう。このままだと、また呼吸困難になりかねないから今の内に準備しておく。使わなかったら片付けなければいいだけの話だし。

蛭「○○、大丈夫？」

「・・・」

京治「蛭、病院に電話したから○○の冷えピタ変えて着替えさせて」

蛭「わかった。」

光「けーじ！けーじ！俺、何してればいい??」

京治「、、、おーには静かにしてて」

光太郎? ショッ ホクレモーター

ちゅーにいが、○○を抱っこして車に乗せた。俺の膝にぐったりとした○○が横たわっている。

【in病院】

放送「黒尾○○さーん、どーぞー」

○○は、ちゅーにいに抱っこされている。やっぱり熱出した。○○にもっと注意するべきだった。俺は自分の力不足だと感じた。

ポンポン

急に、ちゅーにいが俺の頭を撫でてきた。

京治「な、何？」

鉄「お前、自分の力不足だとか思ってたんだろ。そんな事ねーからな。お前がいなかったら、お前がこんなに○○○のことは見てなかったら○○○をこんなに速く病院に連れてくることなんてできなかつたから。」

京治「、、うん。ありがと、ちゅーにい」

鉄「大体よー、京治が力不足だったら、兄貴はなんなんだよ。なんもやってねーじゃん、あいつ」

俺は少し楽になった気がした。